

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
-			
授業のねらい（概要）	<p>企業活動のグローバル化に伴い、原材料の調達から生産、販売、回収・リサイクルに至るまでのモノと情報の流れを戦略的な視点より一元的に計画・実施・統制する国際物流の役割がますます重要となっている。とりわけ、国際物流では、克服すべき空間的、時間的な隔たりが大きく、さらに国境障壁など様々な環境変化を先取りした中長期に立った国際物流戦略の構築と運営が大切である。</p> <p>従って、本授業では国際物流の基礎概念や事例などを詳細に考察し、今後の国際物流の諸問題を戦略的な視点から診断できる能力を身につけることを目的とする(DP)。</p>		
授業計画	<p>第1回</p> <p>第1回 国際物流の基礎概念Ⅰ  第2回 国際物流の基礎概念Ⅱ  第3回 国際物流の基礎概念Ⅲ  第4回 国際物流の現代的特徴  第5回 国際海上輸送Ⅰ  第6回 国際海上輸送Ⅱ  第7回 航空貨物輸送  第8回 国際複合輸送  第9回 コンテナ輸送とコンテナ・ターミナル  第10回 コンテナ貨物と通関業務  第11回 輸入貨物の現状と課題  第12回 国際物流情報システム  第13回 国際物流とフォワーダー業務  第14回 グローバル・ロジスティクス戦略Ⅰ  第15回 グローバル・ロジスティクス戦略Ⅱ</p> <p>予習（時間）：毎週配布しているプリントをまとめ、国際物流に関する基礎概念を理解する。  （毎週120分）  復習（時間）：国際物流戦略の在り方と国際物流システムの構築と運営方法を考察してみる。  （毎週120分）</p>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）			
到達目標	<p>国際物流及びロジスティクスに関する基礎概念、担い手、機能、領域を理論と事例の両面から総合的に考察することによって、国際流通理論の体系化とその対応課題を戦略的に診断できる知識の獲得を到達目標とする。</p>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法			
履修上の注意	<p>授業では発表と意見交換を行ってもらいたいことがあるため、国際物流関連のキーワードを中心とした予習・復習が必要である。なお、欠席は原則として認めない。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>定期試験（60%）、レポート（30%）、授業への意欲・態度（10%）の割合で評価する。</p>		
教科書			
参考書・教材	<p>【教材】 授業において資料を配布する。</p>		
備考	<p>講義科目</p>		
教員との連絡方法			